

皆様

2007年10月14日、204年の歴史をもつオペラの老舗であるチェコのシレジア劇場で、チェコの歌手、指揮者、オーケストラによる日本のオペラ「夕鶴」の日本語上演がなされ日本とチェコの文化交流の大きな一歩が刻まれました。日本語での上演は、作曲者が日本語を大切に作曲したことを重視し、あえて歌手たちにとっての大変な苦勞を乗り越えて実現したものです。これは2007年度にチェコで上演された全オペラの中で最高の評価を受けました。オパヴァ市のシレジア劇場とプラハのエステート劇場(別名モーツァルト劇場)を合わせて計14回も上演され、いつも殆ど満席という盛況で、今後ヨーロッパ各地でも上演が準備されています。オペラの故郷であるチェコの音楽家の実力とオペラに造詣の深いチェコの聴衆があつてこその大成功でした。オパヴァ、プラハに駆けつけた日本人聴衆にとつても心揺さぶられる演奏であつたと感想が寄せられています。シレジア劇場は日本の皆様にもこれを観ていただきたいものと考えて日本上演を決定いたしました。今年10月24日のつくば市での上演を皮切りに、常陸大宮市、長岡市、新潟市そして11月2日には名古屋のアートピアホールで上演いたします。本場ヨーロッパでじっくりと熟成されたこの日本のオペラ「夕鶴」の上演は、日本の皆様にとって新たな驚きとなるものと信じています。

特に若い人たちに観ていただきたい(日本語上演です)ことから、家族割引や学生席の割引をもうけました。チェコ共和国文化庁等の強力なご支援のお陰で、このようなチケット価格での実現が可能になりました。ぜひお出かけくださいますようお願い申し上げます。



日時:2009年11月2日(月) 18:30開場、19:00開演

会場:名古屋市青少年文化センター アートピアホール

(名古屋市中区栄3丁目18番1号 ナディアパーク内デザインセンタービル)

全指定席です。S席 12,000円、A席 8,000円、学生席 5,000円

家族割引(大人1名+中学生以下の児童生徒)S席は2席で15,000円

A席は2席で10,000円

チケットは、チケットぴあ、およびナディアパークプレイガイド窓口で販売いたします。なおチケットぴあのPコードは327-363です。

出演:チェコ共和国オパヴァ市 シレジア劇場
音楽監督・指揮:Jan Snítíl
つう:Katarína Jorda Kramolišová
与ひょう:Michal Vojta
運ず:Zdeněk Kapl
惣ど:Peter Soós
オーケストラ:オパヴァ・シレジアン劇場オーケストラ
(ただし子供たちは つくばの「とんとんやかた」児童合唱団)

当日このオペラ上演について解説するプレトークが 18:15 から 18:45 までございます。
このプレトークは同館7階第1スタジオでおこないます。(限定先着順 90 名様／無料)

主催:名古屋シレジア劇場夕鶴上演実行委員会
後援:愛知県,名古屋市,名古屋市教育委員会,(財)名古屋市文化振興事業団,
中日新聞社,チェコ共和国大使館,チェコセンター,外務省,チェコ共和国文化庁,
チェコ共和国貴族院,チェコ・日本友好協会,日本チェコ協会,チェコ倶楽部

お問い合わせ:名古屋シレジア劇場夕鶴上演実行委員 Tel (052)972-6255
E-mail tokio.ohska@kek.jp

この公演に先立ち、日本チェコセンターの御支援のもとで「日本とチェコの文化」につ
いてのミニ講演会(すべて日本語)を実施いたします。

日時:2009年7月20日 14時から16時まで

場所:愛知県芸術文化センター12階のアートスペース E・F

(入場無料ですが、限定60名とさせていただきます。)

講演1:「チェコ人によるオペラ「夕鶴」の日本語上演」 トキオ・ケネス・オオスカ

講演2:「チェコ文化とチェコ建築」 日本チェコセンター所長 ペトル・ホリー

2009年6月1日

名古屋シレジア劇場オペラ「夕鶴」上演実行委員会

委員長 栗山 紘和

聴衆を魅了する伝統の音色
チェコオペラ界の至宝が贈る、日本の美!

Opera 夕鶴

團 伊玖磨 作曲
木下 順二 原作

オパヴァ シレジア劇場管弦楽団
オリジナル日本語上演

■音楽総監督 指揮■
ヤン・スニーチル

■演出 舞台監督■
ダニエル・ヴィースネル
大須賀ケネス 開雄



つう
カタリーナ・ヨルダ・クラモリショヴァー

与ひょう
ミハル・ツォイタ

運ず
ズデニェック・カプル

歌ど
ベテル・ショーシ

子供たち
「とんとんやかた」児童合唱団



声、歌い方はもとより、舞台の上での演技に日本人の心情を深く感じて、感動しました。音楽を聴き、演技を見て、自然に涙が頬をぬらす。それをぬぐう気にもなれない。その感動を体の、心の奥深くまで浸透させていく。そんな体験でした。(2008年アラハ公演の感想より)

ヨーロッパ史上初めて原語日本語で上演された『夕鶴』
プラハ初め各地で絶賛された同じキャストが
日本の叙情を美しく歌いあげる。

「日本とチェコ」
国際音楽文化交流
チェコ共和国ビロード革命
20周年記念



11/2月
19:00開演 (18:30開場)

名古屋市青少年文化センター アートピアホール

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク内デザインセンター ビル

全指定席: S席 12,000円 A席 8,000円 学生席 5,000円
家族割引(大人+中学生以下の児童生徒): S(2席) 15,000円 A(2席) 10,000円

チケット発売日: 6月1日(月)

チケットのお求めは チケットピア: Tel.*** *****
ナディアパークプレイガイド窓口: Tel.*** *****

お問い合わせ 名古屋シレジア劇場夕鶴上演実行委員会
Tel. 052-972-6255 E-mail tokio.ohska@kek.jp

主催: 名古屋シレジア劇場夕鶴上演実行委員会
後援: 愛知県 名古屋市 名古屋市教育委員会 (財)名古屋市文化振興事業団 中日新聞社



後援

チェコ共和国大使館
チェコセンター
外務省
チェコ共和国文化庁
チェコ共和国貴族院
チェコ・日本友好協会
日本チェコ協会
チェコ倶楽部



“**都は美しい**、**そよよのうつも一緒に**、**行こう**”と語る無邪気な与ひょうを優しく見守るつう、だからこそ機を織るつう、“つう、おらんのか”…かけがえないつうだから、**そ、心配で心配で**、覗いてしまう**与ひょう**、ふたりの優しさが**別れへと運命を**導いていきます。…**与ひょうはつうを**失ったのでしょうか。つうの…**自然界のかけがえのない心**を、彼は**重く抱きしめ**ました…。

ヨーロッパでは忘れられていた日本の代表オペラ「夕鶴」が、ドイツのキール以来半世紀近くたった2007年、チェコオペラ界の至宝シレジア劇場でチェコ初演として取り上げられた。音楽監督ヤン・スニーチルに導かれ、日本の美と哀愁、優しさを原語日本語で歌い上げた公演は、プラハ貴族劇場はじめ各地で絶賛されている。日本で昔から慣れ親しまれている昔話「鶴の恩返し」。人が何をもって美しいと思ったり感動したりするのか、昔話はいつもそと私たちに語りかける。人の深層心理をやさしく、そして鮮明に描き出すその昔話から木下順二が美しい文学作品として戯曲化した「夕鶴」、そしてその心を綴った團伊玖磨の音楽をヨーロッパの「夕鶴」は歌い上げた。言葉や民族を超えたところに奥深い同じ心があることを、そんな美しい魂を届けてくれる。



オパヴァ シレジア劇場

チェコの東の果て、シレジア地方の首都オパヴァに建つオパヴァ シレジア劇場は、1805年オープン以来200年以上にわたり上演をし続けている、国内でも最も古い歴史をもつ歌劇場のひとつである。チェコで自前の団員を有する劇場としては最小でありながら、二年ごとにプラハで開催されているオペラフェスティバルではプラハ国民劇場を含む全国十一劇場が賞を競う中、数々の賞を受賞、特に2003年には、ヴェルディの「群盗」(ヤン・スニーチル指揮、ヨゼフ・ノヴァーク演出)で最優秀賞「リブシカ」を獲得し、2006年秋には、主人公ノルマ役のクラモリショヴァーが名誉賞「ターリア」を受賞したベリーニの「ノルマ」でスペインを巡演するなど、その功績や活動も華々しい。また、未上演の作品やあまり有名でない作品も積極的に取り上げ(ブランク「カルメラ修道女の対話」やヴェルディ「群盗」、リムスキー・コルサコフ「皇帝の花嫁」など)大きな成功を収めてた。その質の高い演奏と存在は国境を越え国外にも広く知られ、常に賞賛的となっている。



カタリーナ・ヨルダ・クラモリショヴァー ソプラノ

1993年プラチスラヴァアカデミー大学卒業。在学中、イタリアパルマのコンラート・ディ・ヴェルディ国際コンクールにて最優秀賞。同年チェコ・カルロヴィ・ヴァリのアントニー・ドヴォルジャーク国際コンクールでは、第二等賞と聴衆賞を受賞。現在、オパヴァ シレジア劇場の常任第一歌手として同劇場の舞台に出演する一方、スロヴァキア国民劇場(ブラチスラヴァ)、J.G.タヨフスキー劇場(パンスカー・ピストリツァ)、コシツェ国立劇場(コシツェ、スロヴァキア)、プラハ国民劇場のゲスト歌手。2003年、オパヴァシレジア劇場上演ヴェルディ作のオペラ「群盗」が、その年のオペラフェスティバル最優秀賞に輝き、主役のアマリアを歌った彼女は最優秀主演歌唱賞を授与された。また、翌年の2004年には、ベリーニ作のオペラ「ノルマ」での歌唱力、演技力が評価され、国内最優秀歌手賞「ターリエ」を授与。



ミハル・ヴォイタ テノール

チェスケー・ブジュヴィツェ・南チェコ劇場やプラハ国立劇場、ウィーン国立オペラ座を経て、現在はオパヴァ シレジア劇場にソロ・テノールとして所属し、ザルツブルグ音楽祭、チェコ国内の様々な劇場で活躍。そのすばらしく心に迫る歌唱力と演技力は高く評価され、2004年、チェコ国内でもっとも優れたと評された歌手及び俳優に贈られるターリア賞を授与された。「魔笛」タミーノ(モーツァルト)、「ノルマ」ポリオーネ(ベリーニ)、「群盗」カルロ、「吟遊詩人」マンリーコ(ヴェルディ)、「トスカ」カヴァラドッシ(プッチーニ)、「ルサルカ」王子(ドヴォルジャーク)、「売られた花嫁」イエニク、「ダリボル」ダリボル(スメタナ)、など幅広いレパートリーを誇る。



ズデニェック・カプル バリトン

ヤナー・チェク芸術大学にて、声楽をトマーシ・クレイチジーク教授に師事。2001年、チェコ共和国カルロヴィ・ヴァリにて開催されたアントニー・ドヴォルジャーク国際コンクールに於いて、ヴァレーム・ズデーテック賞を受賞。ヴェニス、ドイツのグーッティンゲンやカルルスルーへ、チェコのチェスキー・クルムロフでバロック・オペラ歌手として活動するとともに、2002年より、オパヴァ シレジア劇場の常任バリトン歌手。「トスカ」堂守(プッチーニ)、「ドン・ジョヴァンニ」ドン・ジョヴァンニ(モーツァルト)、「カルメン」ズニガ(ビゼー)、「ダリボル」フチヴォイ(スメタナ)、「ヤコビーン」ボフシ(ドヴォルジャーク)など、演技派ソリストとして高い評価を受けている。



ベデル・ジョーシ バス

スロヴァキア共和国のコシツェコンセルヴァトアールを卒業後、ソロ・バスとして、コシツェ国立劇場やヨナーシ・ザールボルスキー劇場などで活躍。現在は、チェコ共和国のオパヴァシレジア劇場に所属し、スロヴァキア国内の劇場でもゲスト出演している。「ドン・ジョヴァンニ」コムトゥール(モーツァルト)、「トスカ」アンジェロッティ(プッチーニ)、「吟遊詩人」フェルランド(ヴェルディ)、「売られた花嫁」仲人ケツァル(スメタナ)、「ダリボル」看守ベネシ(スメタナ)など、魅力ある深い低音に定評がある。



■いつもその舞台上に賞を贈られ続けるオパヴァ シレジア劇場。今回初演を迎えた「夕鶴」は再び聴衆を魅了し、日本オペラのヨーロッパ初原語上演として記録に残ることとなった。
リドヴェー・ノヴィニ紙(人民新聞)
ヘレナ・ハヴリーコヴァー記

■カタリーナ・ヨルダ・クラモリショヴァーは品の高い演技と柔軟な声で夫婦の幸せを望みながら偉い努力と犠牲を必死に重ねる美しい「つう」を、一方「与ひょう」役のミハル・ヴォイタは妻とは対照的な彼の純感さを巧みに演じ、作品中で男性と女性の視点のすれ違ふ様を聴衆の前に描き出した。
劇場情報誌 第十九号 ヨゼフ・ヘルマン記

■指揮者ヤン・スニーチルの監督のもとでオーケストラは鮮やかな色合いを醸しだし立体的に浮き上がる素晴らしい演奏を披露した。
ブラーヴォ紙 ラドミラ・フルチノヴァー記